

「 GuLACTIC 整形領域

～ 現場で役立つ“ポイント”と“コツ”と“志” ～ 」

富永草野病院 画像情報科

野水 敏行

(Nomizu Toshiyuki)

ヘリカル CT の登場以来、MPR 画像や 3D 画像が普及し、それにともない四肢関節をはじめ整形領域の CT の需要は増加した。現在では従来の断層撮影に代わる一般的な検査となっている。しかし整形領域の CT は、一般撮影のように長年にわたって培われ標準化されてきた撮影法は無く、各施設・撮影者によって様々である。整形領域の問題点としては、全身の骨・関節が対象となるため部位・疾患が非常に多くそれらの形態が異なること、関節稼働により形状が変化すること、基準となるスライス面がないことなどが挙げられる。それらによって標準化が遅れていた領域であるといえる。そのような背景の中、2010 年に発刊された日本放射線技術学会叢書「X 線 CT 撮影における標準化～ガイドライン GuLACTIC～」の作成に関わることができ、ある程度の整形領域の指標となるべき方向性を示すことができた。本講演では、「ガイドライン GuLACTIC 整形領域」の解説を中心に、撮影時のポイントとコツを提示するとともに、整形外科特有の診療環境・患者背景を考慮した検査に対する「志」の持論を述べる。本講演が、参加者の日々の業務に少しでも役立てれば幸いである。